

令和2年度 第1回白馬村図書館協議会 議事要旨

日時：令和2年6月29日(月) 13:30～15:30

場所：白馬村保健福祉ふれあいセンター学習室

区分	氏名	所属	出欠
委員	富山 正明	白馬村社会教育委員長	○
	横川 秀明	白馬村公民館長	○
	岩崎 伸子	白馬北小学校／てぶくろの会	○
	篠崎 千恵	白馬南小学校	—
	山崎 英俊	白馬中学校	○
	高橋 英子	公募委員	○
	長島 律子	公募委員	○
	澤 清美	公募委員	○
	山下 慎司	公募委員	○
アドバイザー	篠田 尚利	県立長野図書館	○
	朝倉 久美	県立長野図書館	—
	小澤 多美子	長野県文化財・生涯学習課	—
事務局	関口 久人	生涯学習スポーツ課長兼図書館長	○
	松沢 由美子	白馬村図書館司書	○
	大坪 裕子	白馬村図書館司書	○
	大熊 大智	白馬村図書館司書	○
	山岸 由美	白馬中学校図書室司書	○
	海端 弥生	白馬北小学校図書室司書	○
	渡邊 宏太	生涯学習スポーツ課生涯学習係長	○

1. 開会

関口生涯学習スポーツ課長兼図書館長が開会を宣言した。

2. 委員の任命

新型コロナウイルス感染症対策のため、机上にて任命書を交付した。

3. あいさつ

(平林教育長)

図書館協議会は、図書館長の諮問に応じて図書館の運営に対して意見をいただく会議である。現在は生涯学習スポーツ課長の関口が館長を兼務で務めているが、新たな図書館等複合施設の目途が立った段階で新たな館長をお迎えし、村民の文化的な活動・交流の場として活気と賑わいの溢れる図書館を目指したい。

平成 28 年 4 月に第二次白馬村図書館基本計画を策定し、子どもたちの成長、人づくり、暮らし、地域おこし、まちづくり、文化振興に役立つ図書館の実現に向けて取り組んでいる。現行の計画期間が今年度末までとなっていることから、令和 3 年度から 5 年間の図書館経営のあり方とその実現に向けた取組みや方向性を明らかにするために、第三次白馬村図書館基本計画を策定したい。

各委員には白馬村図書館が持つ可能性を最大限に引き出せるようご意見とご提案をいただきたい。

4. 自己紹介

出席者が自己紹介をした。(別紙委員名簿参照)

(委員)

今回から「アドバイザー」として県立図書館の職員が参加しているが、こういった狙いがあるのか。

(事務局)

現在の図書館についても、新たな図書館複合施設についても、他の図書館の状況や事例などを幅広く把握している県立図書館の職員にご助言・ご提案をいただき、より良い図書館運営ができればという想いで就任をお願いしたものである。

5. 委員長・副委員長選任

白馬村図書館条例第 4 条の 2 第 2 項により委員長・副委員長は委員の互選とされており、委員からの推薦がなかったため、事務局案として委員長に富山委員、副委員長に横川委員を推薦し、全委員の承認を得た。

・委員長就任あいさつ

(富山委員長)

新たな図書館複合施設検討委員会の委員長を 2 年ほど務めてきた。村民の希望や今後の

図書館のあり方を取りまとめて報告した経験を活かし、皆様のご意見をお聴きしながら新たな施設の建設につながるような図書館基本計画を策定したい。

6. 会議事項

(1) 令和元年度の事業報告・利用状況等について

資料に基づき事務局から説明した。(資料1「令和元年度 白馬村図書館事業報告」)

(委員長)

資料1のP6「一人あたり貸出冊数」というのは、本を借りた人を対象に一人あたり何冊借りたかという数字を表しているのか。

(事務局)

貸出冊数を人口で割った数字であるため、「人口一人あたり」ということである。

(委員長)

大北地域の比較表で、白馬村はレファレンス件数が他に比べて多くなっているが、何か理由はあるのか。また、こういった問い合わせ・相談が多いのか。

(事務局)

どこまでを含めるかという基準がそれぞれ違う部分もあるが、来館者に聞かれたことはすべて含めて算出していることも件数が多い理由であると考えられる。本の内容については、インターネットで確認して来る方も多いが、館内のどこにあるのかという問い合わせは多い。また、漠然としたイメージを伝えられ、来館者が求める本を紹介するようなこともある。

(2) 図書館等複合施設整備について

白馬村図書館等複合施設基本計画概要版に基づき事務局から説明した。

(委員)

図書館施設検討委員会では、「駅は分室として貸出・返却ができたり、待ち時間に閲覧ができればいいのではないか」という話が出たくらいで、候補地としてはほとんど議論されなかったため、最有力候補地となったことを知り、衝撃を受けた。

「子連れの人や高齢者が気軽に行くことができる出会いの場所・憩いの場所」と考えていたため、木々の緑が豊かで山も見えて、静かな雰囲気フラットなイメージを抱いていたため、候補地Cがとても良いと思った。

前面道路が狭いという難点もあるが、子どもたちのことを考えても、南小学校の子どもたちに来てもらうためには巡回バスが必要になるかもしれないが、北小学校の子どもたちが本を借りに来やすい場所である。

駅に図書館が併設されている事例もいくつかあり、検討する余地はあるかもしれないが、検討委員会で創りあげたイメージとは異なる。子育て中の知人とも図書館の候補地について話をしたが、「グリーンスポーツの森などにはよく遊びに行くが、白馬駅には行かない」ということであった。

図書館等複合施設基本計画にも、「A 候補地なら住民目線、D 候補地なら観光客目線」という記載があり、住民よりも観光客の目線を重視したのかと感じた。

(委員長)

検討委員会では C 候補地を推奨したこともあり、私も似た想いを抱いているが、D 候補地になった理由は官民連携に期待する部分が多いと考える。有識者会議でも「村民は駅にあまり行かないのではないか」という話があり、駅が魅力的になることも大切ではあるが、現状を考えた時に「果たしてどうなんだろう」と思っている人は少なくないだろうし、検討委員会の他の委員からも「どうしてこうなっちゃったの?」と言われた。議員の勉強会にも呼ばれて説明もしたが、「これでいいのか」と言う議員も多く、唐突なイメージは拭えない部分がある。

JR と協議を始めたということであるが、連携する内容や運営の面も、さらに建物だけではなく駐車場や周辺も含めて、様々な問題が開館と同時にクリアできていなければならない。検討委員会では、木流し公園を活用して遊んだり散歩したりする場所を併設できるのも良いのではないかとということで C 候補地を選定した経緯がある。様々なことを総合的に解決していくべきで、「駐車場など建物以外の部分は後で」というわけにはいかない。

検討委員会の中では良いものができるというイメージがあったので、「駅ありき」ではなく広い視点で考えてもらえるとありがたい。

(委員)

都会では駅併設というのはとても良いと思うが、「白馬らしさ」を考えると、豊かな自然に囲まれて木陰で本を読むという姿が相応しいと感じる。縦方向の移動ではなく、広い敷地を活かして横方向に広がりのあるものが良いのではないか。

(委員)

候補地比較における官民連携の”魅力”とは何を指しているのか。

(事務局)

民間が参入するメリットとしての「経済的な魅力」だと認識している。人がたくさん集まるところの方が相乗効果が生まれやすく、経済的な効果も得やすいという考え方である。

駅の官民連携が重視された理由として、有識者会議において「今後税収等も減り公共施設の維持管理・更新の負担が大きくなる中で、経常経費を抑えるような”稼げる施設」という視点も大切なのではないか」という意見が出されたことも挙げられる。

(委員)

図書館で利益を生むというのは難しく、計画に記載されているものだとカフェやホールくらいしか可能性がないのではないかと思うが、そういった部分に期待しているということか。

(事務局)

現時点で「これ」というものを断言することはできないが、計画に記載されているものに限らず、来館を促す相乗効果を生み出すものや家賃収入等も含めて、可能性があるものを広く検討していきたい。実際に駅でどの程度民間参入の可能性があるのか調査・検討し、客観的に判断する資料を揃える必要があると感じている。

(委員長)

「魅力的」というのは曖昧な言葉で、受託業者が具体的に官民連携の可能性を調査したわけではないため、一般的なイメージとして「駅には人が集う」という印象があったかもしれないが、白馬の場合は電車の本数も少なく、どこまで当てはまるか難しい。「駅利用者は観光客だけではなく高校生もいる」という話もあったが、高校生もそれほどたくさんいるわけではない。

C候補地は奥まっているという理由で点数が低くなったが、有識者会議でも「人が歩く道というものを現状で考えるのではなく、ルートをアレンジすればどうにでもなるのではないか」という話もあった。そこまで誘導する仕掛けを作り、自然とそこにたどり着いてしまうような工夫があれば人の流れは作れるのではないかという考え方もある。

都会では駅前を中心にまちづくりをしているが、田舎では駅前は寂れていく状況にある。駅前を再開発して魅力的な場所に創り上げる中で図書館も位置付けるのであればD候補地もいいかもしれないが、今の状況で図書館を作ったから駅前は魅力的になるのかということそうではないと感じる。

官民連携といっても利益を生めるほど人が集まるだろうかと考えると、カフェなどでは利益は出ないのではないか。検討委員会でも「運営の中で利益を生むものを作らなければならぬ」という意見もあり、カフェをどう考えるかも議論してきたが、図書館にあるカフェで成功している事例はあまりなく、撤退するところも出てきている。特に直営は難しいと聞いている。

表面的に民間が入ってJRに負んぶに抱っこでいいのか、途中で撤退するような可能性はないのか、大糸線がいつまで存続するかといったことも心配である。塩尻市は駅の再開発に位置付けて新しい図書館を作ったが、今回は図書館だけが議論されているので、その辺りを慎重に扱わなければならないし、その辺りも含めて検討していただきたい。

委員長として意見を言うのはあまり良くないかもしれないが、これまでの経過を踏まえて少し問題があるのではないかという意見もあったため発言させていただいた。

(委員)

候補地によってJRが関わらなくなってしまうと、図書館建設に関して経済的に妥協しな

ければならない状況になってしまうのか。

(事務局)

候補地が駅であってもなくても、白馬村としてどこまでお金をかけて何ができるかというのは検討しなければならないが、今は駅を候補地としてJRと一緒に何ができるかを検討している。駅以外では建設できないというわけではないし、駅であっても予算的に妥協せざるを得ない部分が出てくる可能性はある。

(委員)

税収が少なくなっていく中で、観光客にお金を落としてもらうことを考えると駅は悪くないのではないかという思いもある。大糸線が無くなるかもしれないという危機は別の課題として、観光のお客様を駅から迎え入れるといった形で解決することも考えられるのではないか。

思い描いたものがどこまでできるのかと考えたときに、お金が無いから妥協して施設を作るのか、駅でJRと一緒に時代に合った施設を作れるのか、悩ましいところである。

縦に移動するのは白馬らしくないと感じる。いろいろな図書館を見てきたが、せっかく白馬に作るのであれば、平地で広々としていて、隣の人との距離も確保できて、カフェも賑わっているがスペースは確保されているような施設がいいと思う。

C候補地は村有地であるため土地取得の費用が不要となるが、周辺の人たちは子どもたちの遊ぶ声などは気にならないのかといった不安もある。

(委員長)

C候補地は元々保育園で、今は子育て支援施設として子どもたちが来ているが、老朽化して使えるスペースが限られてしまっていて、建て替えか改修が必要となっている。既存の建物もあるためリノベーションという選択肢もありうるのではないかと思うし、西側の土地も空いている。隣に木流し公園があり、一体的に整備することで散策などもできる。

駅が有力とされたことについては、収益を考えた部分があり、建設費は何とかなくても、運営・維持管理の経費を考えたときに、税金だけで何とかしようとするとは厳しい状況になるかもしれない。そうであれば付帯的なものがあつた方がいいのではないかという考えもある。今の駅では建物が細長くなってしまったため、平面的な広がりがなく使い勝手はあまり良くない。

それぞれ想いがあって、「図書館の中身が大切なのであって、建物はどうでもいい」という声もあるし、「利用者としてはワンフロアをベースとして上下の移動がなく見渡せる方が使いやすい」という声もある。

お金の話は現実的に考えなければならないが、まずはイメージを膨らませてみて、場所も中身も含めて魅力的で使いやすいものとするために、何を優先させるのかを検討するのが良いと考える。検討委員会では、C候補地で土地購入費を抑えて中身を充実させるという方針を選んだが、村は最終的に官民連携を重んじてD候補地を選んだ。いろいろな考え方があるため、どれが良い悪いといのは難しいが、せっかく作るのであればしっかりみんなで議論したい。

昨年度までに基本構想、基本計画まで策定したので、次は基本設計、実施設計と進むと思うが、費用の部分も含めていろいろな可能性を含めて「どうすれば村の多くの人たちが納得して進められるか」を考えたい。このまま進むと「開館しても村民に喜ばれないのではないか」という不安もあり、立ち止まって考える時間を作ってほしいという思いはある。

(委員)

建設費用はどう調達するのか。

(事務局)

現状では駅で官民連携の可能性を含めて検討しているため、JR や他の民間も含めて、建設・所有の形態等も幅広く探っている。一般論として村が直営で建設・所有する場合には、3分の1から半分程度は国の補助金等を活用して、残りは村が負担するという形が多い。

(委員)

人口減少や高齢化など税収が減ることを前提にしているが、人口を増やして税収を増やすことはできないか。

同規模の自治体と比べると、公共交通など住民目線の施策が少ないように感じてしまう。会社に行かなくても仕事ができる人はたくさんいるため、住民目線でそういった人たちが子育てしやすい村にすることで、若年層・子育て世代に転入してもらえるのではないか。自分の周りには、子育て中の世帯が転出してしまい、仕事は白馬に通っているという方も少なくない。住民が暮らしやすい村づくりを進めてほしい。

(委員長)

新たな図書館複合施設が、子育て支援も含めてそういったきっかけになればと思っている。

補助金について、図書館を対象としたものがあるのか。

(事務局)

図書館に限ったものはないため、一般的な施設整備として社会資本整備総合交付金等を活用する事例が多い。

(3) 白馬村図書館基本計画について

資料に基づき事務局から説明した。

- ・資料2「白馬村図書館基本計画（第三次）策定スケジュール」
- ・資料3「白馬村図書館基本計画（第二次）評価」

(委員)

図書館基本計画において新しい図書館はどういう位置付けになるのか。

(事務局)

図書館基本計画は、原則として「今の図書館をどう運営していくか」というものである。新しい図書館をどうするかということは今回の計画策定とは別に検討することになるが、新たな計画は令和3年度から5年間の方針を定めるものであるため、新たな施設を見据えて内容を検討する必要がある。

(委員)

「障がい者や高齢者への宅配サービス」について、実際に要望があったのか。

(事務局)

例えば車いすの利用者について、図書館の周りだけ除雪したところで来館が難しいという状況もあるし、頻繁に来館されていた方が高齢になって来られなくなることもあり、図書館の努力だけではどうしようもない部分もある。通路を狭くしないように心がけたりはしているが、現状としてニーズに即した事業展開というところまではできていない。

宅配について、具体的に要望を受けたことはないが、家族が代わりに借りに来ることはあるため、実現すれば喜ばれるかもしれない。

(委員)

宅配するとなると、どの本があるかということも調べなければならない。

(事務局)

本の有無はインターネットで検索できるが、そういったものを利用することを敬遠する人もいるため、司書が間に入ることができることはまだあるかもしれない。電話で照会を受けることはあるが、そういった方は家でインターネットをしないと思われる。

(委員長)

潜在的なニーズがどの程度あるかわからないが、やるのであれば「ぜひご利用ください」という広報をしないと、待っているだけでは利用してもらえない。

(委員)

建物のことは仕方ないが、職員の配置については自治体の規模に応じた基準があると思うが、それには則っているのか。不足しているようであれば、それを充足しないと、個人の努力では限界があるのではないか。

(事務局)

目安となる基準はあるが、今の施設では職員の事務スペースも限られていることから増員は難しい。新たな施設で開館するときは当然増員となるが、急に人を増やせばいいという問題ではないため、それに向けて今からどういった準備ができるのか検討する必要がある。

る。

(アドバイザー)

現在の図書館運営に関する基本計画だけでなく、新しい図書館等複合施設も含めて、具体的に一つ一つがどうこうというわけではないが、全体的な部分で意見を申し上げたい。

県立図書館では昨年度3階に「信州・学び創造ラボ」という新しい場を創った。前年度からアンカンファレンスというワークショップを何度も開催したが、講師として来ていただいた方々が共通して話されていたのは、「メニュー選びのようなことはやめましょう」ということであった。メニューひとつひとつを見て「これがほしい、あれがほしい」と注文するのではなく、どんな人に来てほしいのか、どんなことが起きてほしいのか、こうなったらいいなということが先にあるべきで、カフェだけを切り取って「あった方がいい」と考えるのではなく、「こんな図書館にしたいからカフェが必要」という順番で考えなければならぬ。この場でどこまで考えられるかわからないが、白馬村がどんな村になってほしいのか、白馬村の子どもたちにどう育ってほしいのか、白馬村にどんな図書館が必要なのかといったことをしっかり考えた上で、場所や機能について検討した方が良いのではないかと感じている。

白馬村第5次総合計画にも多様な住民からの様々な意見が載っていて、それと同じようにいろいろな要望を汲み取ること、一緒に考えていくことが大切だと思う。例えば、総合計画の中に「ITなど観光以外の産業を誘致」と書いてあるが、それは行政だけが頑張ることができるものではなくて、「そういう人たちが来るということがどういうことなのか、どうすればできるのか」ということをみんなで考えるプロセスが大切だと思う。

現行の図書館基本計画についても、メニュー選びをするのではなく、本当に必要な図書館を考えた結果としてできたものが、次の新しい図書館等複合施設に繋がっていくと思うので、単純に各項目ができていない・できていないという話ではなく、どういう図書館にしたいのかということを考えていただきたい。

県立図書館も新型コロナウイルスの影響で4月～5月は閉館して、誰も来れないという状況で「図書館は何のためにあるのか」という存在意義を突きつけられ、みんなで真剣に考える機会になった。今後、第2波、第3波が訪れる可能性もあり、「図書館は本当に必要なのか」、「本を貸していればそれでいいのか」というところを考えなければならぬし、「数値目標を達成していればいい」というものでもないと思う。

アドバイザーという立場ながら大それたことはできないが、白馬に縁のある立場として一緒に考えていきたい。

(委員長)

貴重な意見に感謝する。検討委員会でも「何が欲しいか」ではなく「どんな図書館があったらいいか」という話をしてきた。今回の図書館基本計画でも大きな目標を立てて、その実現に向けて各項目を並べるものになるとより良い運営ができるのではないかと。

現在の図書館の運営と、新たな図書館の運営方針をどう整合させていくのかという部分が難しいと感じる。計画期間中に切り替わる可能性もあるし、ダブルスタンダードのようになるかもしれないが、新しい図書館の中身や運営も同時に考えていく必要がある。箱物

を先に作って中身を後から考えるのではなく、そこで何をするのか、村民にどういう使い方をしてもらうのか、掘り下げて考えなければならない。新しい計画に基づいて新しい図書館の運営について議論されるようなこともあってしかるべきである。今までの計画を引き継いで「新しい図書館で考えます」という姿勢だったり、文言を少し変える程度だったりということではなく、「こうしたいから新しい図書館をこう作ります」という形にしないと、新しい図書館運営の土台にならない。

(委員)

「そこで何をするのか」ということを考えながら聞いていたが、今の図書館では、「本に触れながら滞在する」ということができないように感じている。利用者として図書館を訪れた時にはわからなかったが、図書館基本計画を見て、今の図書館でもいろいろなことを考えて運営されていることを知った。インターネットの時代になって、必ずしも図書館に何万冊もの本があってその場ですぐに借りるということができなくても、予約をして借りるという窓口があれば今の規模でも機能を満たせるのではないかと感じた。

新しい図書館ができたら、カフェなどでゆっくりしながらいろいろな本を手にとって見て、たくさんの本に触れられるような機会が提供できれば、もっとたくさんの人に図書館のことを知ってもらい、価値が上がるのではないかと思う。

(委員長)

今まで村民から挙がってきた意見も含めて、新しい計画を作成していきたい。

図書館の良さ・面白さは、気軽に訪れて気になった本を手にとって、知らない本と出会い世界が広がることだと思う。本屋さんは新しい本を売るが、図書館は古い本も取り扱う。インターネットで資料を調べるのは便利であるが、借りる・借りないは別として、歩きながら出会えるのが図書館の魅力と感じる。読書家に限らず、本であっても人であっても、出会いを求めて行く場所になれば良いのではないか。

(委員)

5年前に今の計画を作った時にも、新しい図書館を見据えて当時の委員長や委員と作ったので、それほど大きく変更しなくても良いのではないか。今回の評価で「スペースの問題で」というものがいくつかあったが、それがクリアできるような施設ができて、観光客よりも住んでいる人たちが憩えるような場所ができたら嬉しい。立地の部分でも話があったが、「広々としたスペース」というものが求められている中で、駅はどうなのかなという思いを抱いている人も多いのではないか。

白馬村に移住してきた時には図書館自体が無かったので、そこから考えると「やっとここまで来た」という感じであるが、次の5年間でさらに良い図書館ができたらいいなと思う。

(委員長)

新しい図書館のイメージも見据えて、さらに良い図書館となるような計画を策定したい。

7. その他

次回の協議会は委員の日程を調整して決定する。

図書館の児童室にエアコンを設置する工事を行っている。

図書館に本の除菌機を設置した。本の清掃・消毒・消臭を行うことができるため、ぜひご利用いただきたい。

8. 閉会

関口生涯学習スポーツ課長兼図書館長が閉会を宣言した。